

聖獣

VIVIO
X
HAYATE

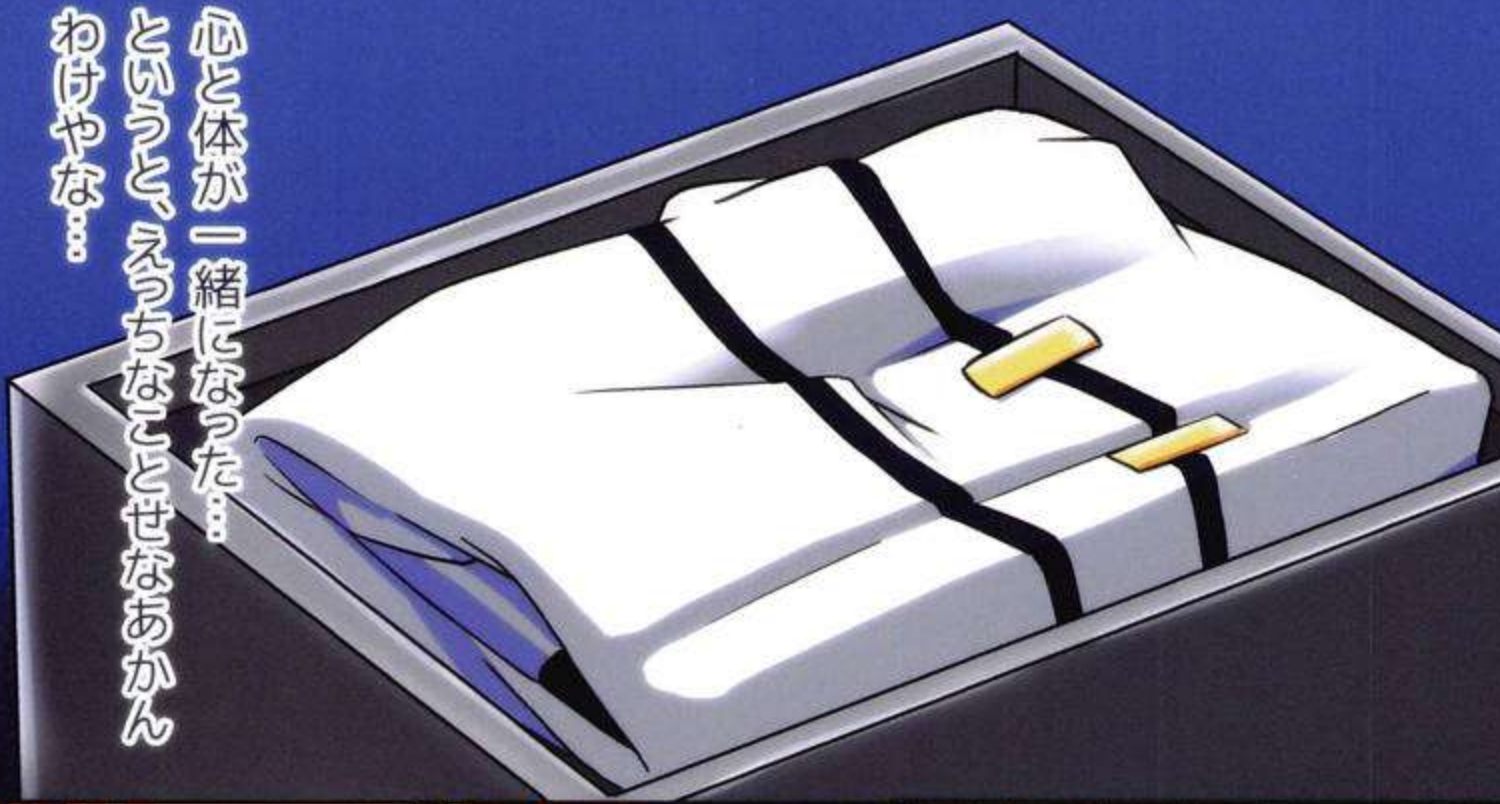
DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



ヴィヴィオが事故？
それは本当なん？ シヤマル

ええ、魔力がうまく排出出来ず、
リンカーコアも正常じゃないら、
心と体が一緒に混ざった体液で
上手く外に排出しないとダメね。



心と体が一緒になった…
というと、えっちなことせなあかん
わけやな…

まだヴィヴィオちゃんという事
不慣れだと思っけど、一番それが
早く治る方法だったりするのよね。

普通のオナニーではだめなん？
聡い子やから、そのくらいは指導してもええんやない？



なのはちゃんに許可をもらって、毎晩やってもらってるけど、
普通の子よりも魔力が集っちゃう体質だから焼け石に水ね。

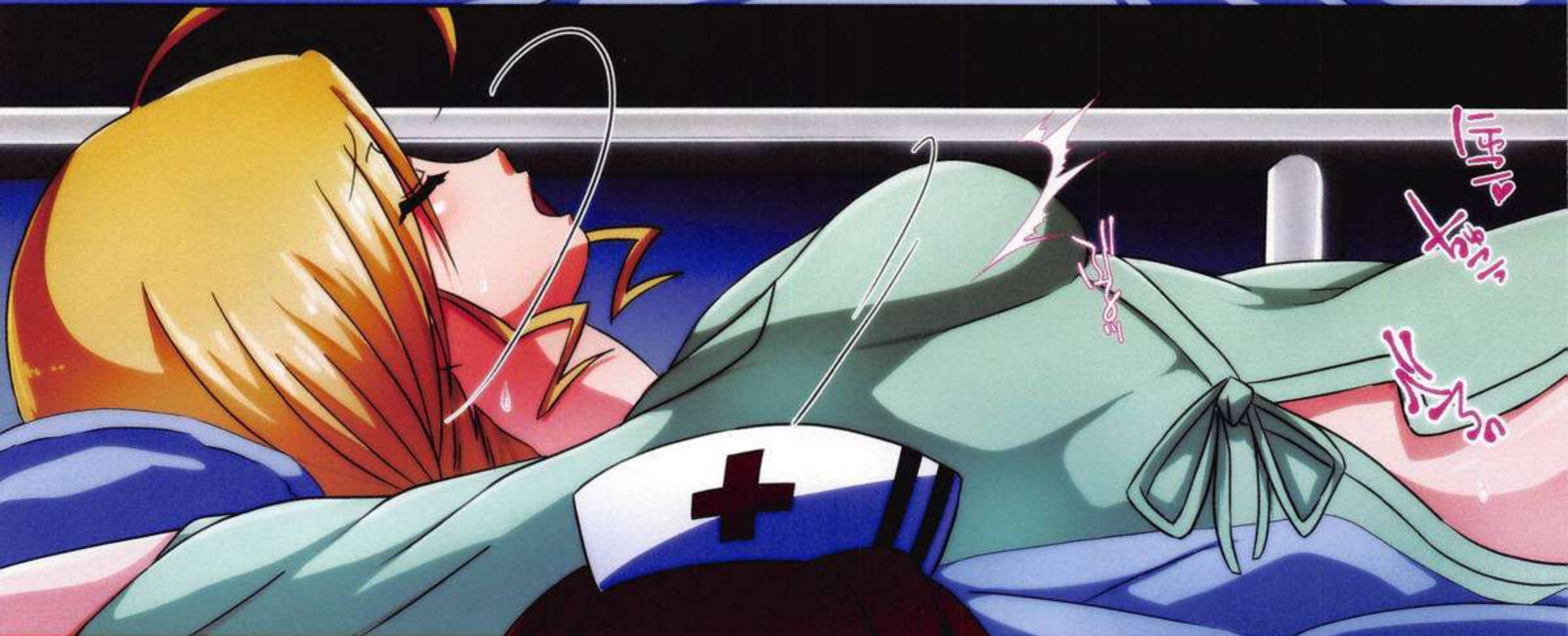
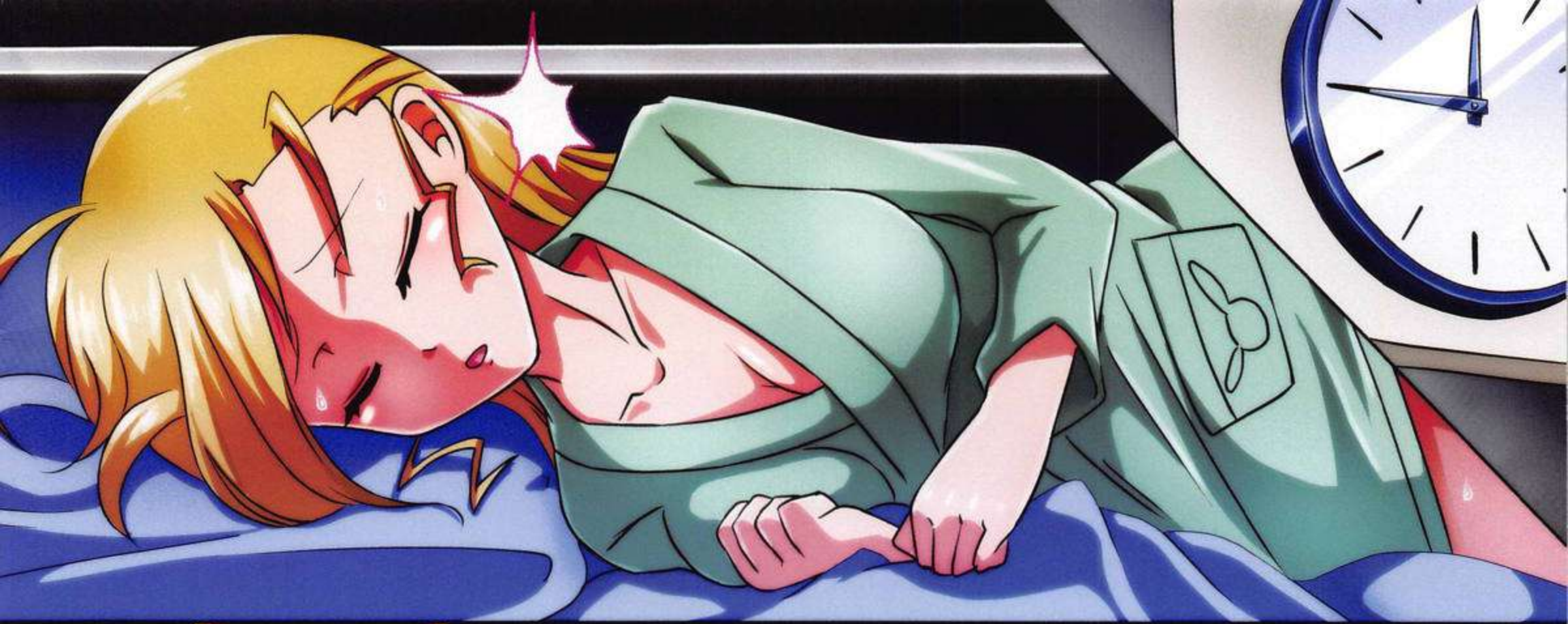
そう…

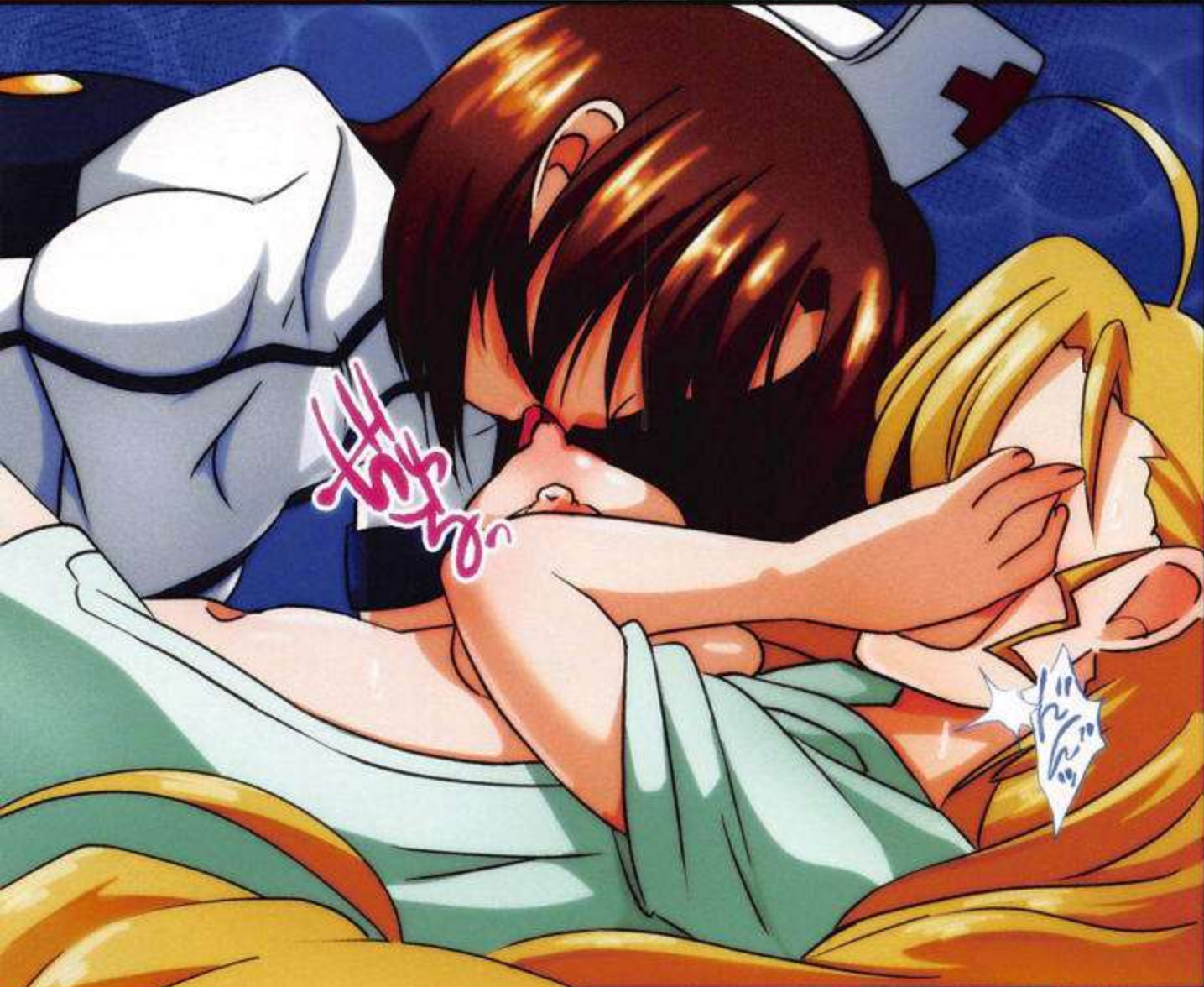
それならば…





私がやるしかないわね!







ちっ

うわあ

ちっ
ちっ
ちっ

うわあ

うわあ



とあふ

んん

ガーン

びんびん
びんびん

んん
んん

+

+

んん

んん

んん
んん

んん



あははは...
あははは



あははは

はあはあ



あはは









女女!

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



ここからわたしの
全☆力☆全☆開

はあ
はあ

ド
ー

あち...
ち...

はあ
はあ

ん
ん

はあ
はあ

はあ
はあ

はあ
はあ







ははは

ははは

ははは

ははは

すずぽんぽん

すずぽんぽん

すずぽんぽん

すずぽんぽん

すずぽんぽん





to be continued...

NEXT ゲストページ(敬称略)



「うう、あの……はやてさん……」
ヴィヴィオのか細い声とは裏腹に肉棒は滾りを取り戻していた。
「お、おう……もう回復したん？ やっぱ若い子は凄いなあ。せやけど、私も身体もたへんし……あー、ほなちよいと趣向を変えてな」
持ち込んでいた靴をおもむろに漁る。
「はやてさん？ 何を探して……」
ひゃー!? こ、これって——」
「見た目通り、オナホやね!」
「そんな良い笑顔で……あッ、ん……締め付けが……! ひゃっ、うッ……動かさ、ないで! 待っああああっ! ひぐッ、すご、い……んう、あああっん!」
意地の悪い表情を浮かべたはやてがオナホを何度も上下に動かす。

弾性のある肉壁がヴィヴィオに生えたペニスを優しく包み、ある種の無機質な刺激がもたらされる。それはヴィヴィオにとって全く経験したことのない類のものだった。
「あう、んッ、あああ! ううう、ん、ひッ、あっ、んんう、待って! はやてさん、それえ! 待って!」
「ええ感じやる? 技術部謹製のやからな。いやー、一応で持ってたきとって良かったわ」
はやてがオナホを上下にしごくたびにヴィヴィオは身体を震わせ、瞳は情欲に染まって潤んだ。自分の手でヴィヴィオを悶えさせているという事実が、はやての心をこの上なく高揚させる。
「ひぐう、んう、あッ、ああッ、やだ! 上下に、そんなッ、ジュポジュポしないでえ! ひッ、んんっ……ああっ! はやてさんっ、はやてひゃん! うう、ひいあああっ! だめ、だめっ、待ってッ! ううう、射精ちやう!」
オナホの中へ吐き出される精の快感に打ち震えるヴィヴィオを、はやてはやけに楽しい表情で眺めていた。



「ひぐっ、ア、アカン！ つあああつ、
んんう、んツ！ ぶりぶり、来すぎて！
おかしなる、ホンマ！ 待って！ んんっ、
あああつ、んぐう！ ヴイ、ヴィヴィ！
お願いやっ！ やめっ、待っ、止めて！」
「うううあつっあああつ！ 吸いつくみた
いっ、すごい！ もっと、もっとツ！」
ヴィヴィオの意識は自身の肉棒が生み
出す快感にしか向けられていなかった。
「あああああつっ！ なん、でっ？ 強
い、強すぎや！ ぶりぶりが！ 止まら
へん！ んんっツ、あツ、ひいっ！」
「またっ、射精ちや……うっ！」
「ひいぎいいい！ むりっ、むりやツ、
こんなん耐えられツ、へん！ あああつ、
おっばい、痺れてっ！ あかんっ！」

電極の出力はヴィヴィオの持つ高質な
魔力によって高まるばかりで、それがは
やての全身を責め立てていた。

「なんツ、や？ この、感覚……っ、
ううううう、んんん！ ひい、止、ま
らへんっ！ なんか、来る、来るっ！」
はやての乳房へ貼り付いた電極の刺
激は、既にリミッターを振り切ってい
る。魔力質を含んでしまった強すぎる
電流はついに乳腺にすら影響を及ぼそ
うとしていた。
「ひぐうううう、おっばいがツ！ 私
の、胸なんかおかしい！ あかんっ、
出るっ、おっばい出るうううう！」
その瞬間、はやての乳房から盛大に
母乳が吹き出す。甘く痺れるような衝
撃がはやての脳を襲い、視界には何度
もチカチカと火花が飛び散る。
「はやてひゃん、もっと、もっとお！」
「イってるっ！ わたし、イってるツ、
おっばい止まらへんっ！」
許容を遥かに超える電流や噴乳の快
楽に、はやては全身を酷く痙攣させた。

「あっ、うううう！ んっ！あかん！
これ、戻って来れなくなってるまう！」
想像を絶する刺激にはやては声を潤ませながら懇願する。しかしヴィヴィオにはそれらの一切が届いていなかった。
今彼女にあるのはより多くの快感を貪ろうとする原始的な衝動だけだ。
「ひややて、しゃん！ わたしっ、もう、げんかい……！」
「ひっ、うううう……ひう、やだやだ、ヴィヴィ！ おねがい、おねがいや……や、やめて？ な？ んんんっ！ 止まって！ とめてえ！」
「「緒だ……でッ、射精るうううう！」
「いぎいいい、イ、イってる！ イってるう！ 私のっ、おっぱい！ 爆発してもうてるうう！」。



「はあ……はあ……」
奔流したヴィヴィオの精液はオナホルルの許容量を超え、収まりきららずに周囲へ飛び散った。
「……あ……っ……んっ」
一方で規格外の魔力が生んだ爆発的な電流の直撃を受けたはやては息も絶え絶えであった。
高く噴き出した母乳が重力に従って二人に降り注ぎ、精液やらと混ざって、白く染め上げる。
「あの……」
未だ痙攣の止まらないはやてへ、ヴィヴィオは恐る恐る声をかける。
「もう一回、いいですか？」
「……堪忍してや……せめてあと一時間……」
次があれば必ず守護騎士たちを巻き込んで、一人で相手をするのは止めようと誓うはやてだった。





わ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

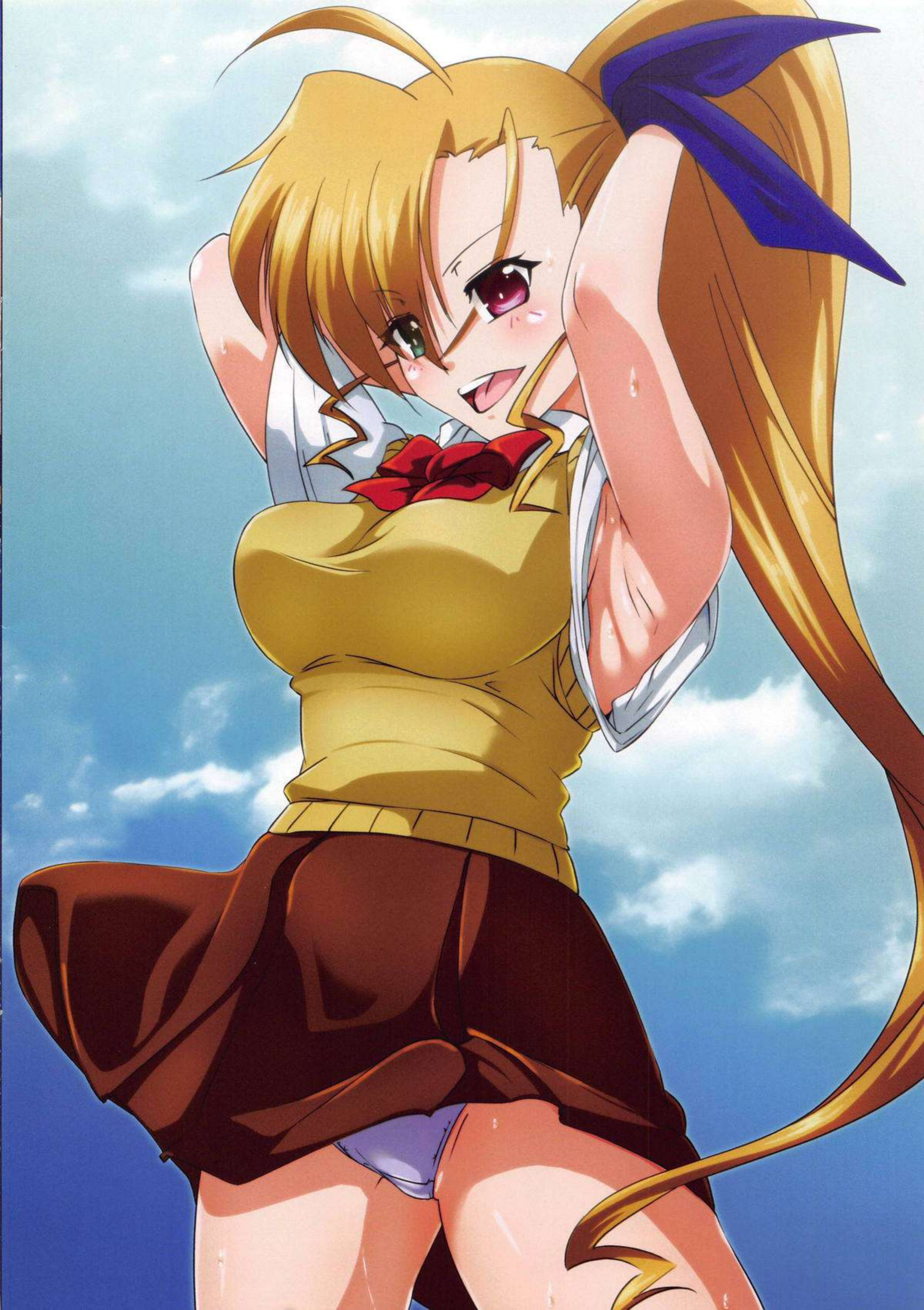
ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡



はじめまして、お久しぶりです小狸堂です(´・ω・`)ゞ
C94新刊【聖獣】のお届けです。

今回は半分ナース(?)本となりました。肌色いっぱい(´・ω・`)、
前回のコミケの本につづきまたびびはや本になりましたが、どちらも
攻めますのでもはや攻守はまったく関係ない本となっております。

今回のテーマとして、漫画表現を導入してみるというのがありまして、
描き文字、吹き出し、エフェクトを入れてみましたが難しいですね！
特に描き文字、描き文字ブラシを今回利用させていただきつつ、足り
ないものは自分で描きましたが、自分、絵を描いているときは非常に
冷静なタイプのため描き文字をすごく冷静な目で見てしまい、いいの
かこれ?という自問自答を繰り返しておりました(´ω´)
普段いかにいろいろ描いてないかを体感する原稿作業となりました。

また、今回はなんと初めての本文挿入のゲストをお招きしました！
ハードなびびはや本でおなじみの「九龍書房 錫木原鈴希」さん！
たくし上げおなじみの「tonitrus raio」さん！
巨乳キャロでおなじみの「駄目姉妹 姉」さん！
錚々たる顔ぶれに僕自身が驚いています、ありがとうございました！

さらに、今回作業中に液タブがとうとう壊れる自体になり、急遽
ZEROPOINTの式師さん、鈴風堂のしいなさんのお二方に液タブを貸
していただき、このトラブルを乗り切ることが出来ました。
ありがとうございます！

この本は特にいろいろな方々の助力によってできた本なんだなあ
と改めて思う次第です。

次回のコミケの本は今回のいろいろを踏まえた上で、キャラクターを
変えて、今までとは違うタイプの本にチャレンジできたらなあと思っ
ています。なのはDetnationも公開されますしね！

それでは小狸堂16冊目のなのは本、楽しんでいただけたらとおもいます。
2018/8/12 たっば

- 奥付 -

聖獣

2018/8/12 コミックマーケット94

発行:小狸堂(<http://www.lyrical-force.com>)

著者:たっば

印刷:グラフィック(<http://www.graphic.co.jp>)

※本著を無断で複製・転載・インターネットへのアップロード
及びオークションへの出品は固くお断りしております



今宵少女達は淫らな獣になる…



Lyrical Nanoha Funbook
SHIROINU